

離島での対面調査から見えてきた一般用医薬品使用に関する実態と課題

平山匡彦,^a 田中秀和,^a 鈴木慎太郎,^a 井上広平,^a 永富亜紀,^a
 作元誠司,^a 北原敏弘,^a 宮崎長一郎,^a 吉谷清光,^b
 佐藤宏樹,^c 堀 里子,^{c,d,e} 三木晶子,^{c,e} 澤田康文^{*,c,e}

The Present Status and Future Issues regarding the Use of Nonprescription Drugs, Obtained from the Results of Face-to-Face Surveys with the Inhabitants of Remote Islands

Tadahiko Hirayama,^a Hidekazu Tanaka,^a Shintarou Suzuki,^a Kouhei Inoue,^a Aki Nagatomi,^a
 Seiji Sakumoto,^a Toshihiro Kitahara,^a Cho-Ichiro Miyazaki,^a Kiyomitsu Yoshitani,^b
 Hiroki Satoh,^c Satoko Hori,^{c,d,e} Akiko Miki,^{c,e} and Yasufumi Sawada^{*,c,e}

^aNagasaki Pharmaceutical Association; 3–18 Mori-machi, Nagasaki 852–8104, Japan; ^bGoto City Hall; 1–1 Fukue-cho, Goto, Nagasaki 853–8501, Japan; ^cGraduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo; ^dInterfaculty Initiative in Information Studies, The University of Tokyo; and ^eNPO Drug Lifetime Management Center; 7–3–1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113–0033, Japan.

(Received October 25, 2012; Accepted May 27, 2013)

This study was conducted among 252 inhabitants aged 16 years or older of small remote islands in Gotoh. The survey was conducted in a direct interview format based on a questionnaire. In the interview, the respondents were asked about the statuses of their Internet usage, purchase/use/storage of nonprescription drugs, acquisition of information regarding nonprescription drugs, as well as regulations pertaining to the sale of nonprescription drugs, including the use of postal services. Among the respondents, 7.5% were Internet users, whereas people who had past experiences in purchasing nonprescription drugs through Internet accounted for as few as 0.8% of the total number of respondents; 63.9% of the inhabitants of small remote islands did not use nonprescription drugs, additionally, most inhabitants of small remote islands did not express any need for nonprescription drugs sold through Internet. Further, the findings suggested that a large number of people felt the need for the presence of pharmacists and experts to provide them with explanations and information regarding nonprescription drugs. However, because a large number of these people were unaware of the existence of pharmacists, it is important that in the future, pharmacists should conduct “consultation meetings and briefings regarding medications.” These meeting may be held in a continuous manner in these small remote islands, such that the inhabitants recognize the difference in a pharmacists’ profession. It is essential that “family pharmacies/pharmacists” play a central role in promoting the supply, management, and proper use of pharmaceutical products.

Key words—small remote island; nonprescription drug; purchasing over the Internet; drug information

緒 言

平成 21 年に施行された改正薬事法を受けて、平成 22 年、筆者らは長崎県五島市において一般用医薬品のインターネットを介した購入に関する離島住民の意識調査を行い、離島住民はインターネットを

介して医薬品を購入しておらず、その必要性をほとんど感じていないことを明らかにした。¹⁾

しかしこの調査では、高齢者が大部分を占める二次離島において、複雑な自記式アンケートに回答できなかった高齢者も多く存在し、さらに、現状では二次離島居住者に対する適正な医薬品の供給や情報提供システムの構築ができていないことから、より詳細な調査が必要ではないかと考えた。

わが国は多くの離島・僻地を抱え、これらの地域には、薬局・店舗販売業のない地域、薬剤師が不在な地域も少なくない。同時に、過疎化等による高齢

The authors declare no conflict of interest.

^a社団法人長崎県薬剤師会、^b五島市役所健康政策課、^c東京大学大学院薬学系研究科、^d東京大学大学院情報学環、^eNPO 法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター

*e-mail: sawada@mol.f.u-tokyo.ac.jp

化、交通の不便さ等は共通の課題である。このような地域が改正薬事法の下、郵便等販売の離島居住者に対する経過措置の継続いかんにかかわらず、安全な一般用医薬品の適正使用を実現するためには、都市部とは異なる医薬品供給・管理・適正使用モデルが必要であると考え、そこで本研究では、長崎県五島市の二次離島をモデル地域として、わが国の離島・僻地における一般用医薬品の最適な供給・管理体制、薬剤師と市民のリスクコミュニケーションのあり方、さらには、離島・僻地の居住者が、どのような方法での医薬品の供給・情報の提供を求めているのかを対面調査し、離島における一般用医薬品の供給方法・管理体制・情報提供・適正使用の最適な方法を提案することを最終的な目的とした。

方 法

1. 用語の定義

1-1. 「一次離島」及び「二次離島」 長崎県五島市には、有人島が11ヵ所（福江島・奈留島・前島・久賀島・蔵小島・枕島・赤島・黄島・黒島・島山島・嵯峨島）存在している。これらの島のうち、福江島と奈留島には「薬局・店舗販売業」が存在しているが、それ以外の島には存在していない。本研究において、「一次離島」及び「二次離島」という区分を設け、定義を以下の通りとした。

「一次離島」…本土との直接的な移動手段があり、薬局や店舗販売業があるような大離島（福江島、奈留島、島山島）。なお「島山島」には「薬局・店舗販売業」が存在しないものの、実際には「福江島」と橋で結ばれているため、本研究では一次離島区分に含めた。

「二次離島」…本土への直接的な移動手段がなく、薬局・店舗販売業がないような、大離島の周辺に点在する小離島（前島・久賀島・蔵小島・枕島・赤島・黄島・黒島・嵯峨島）。

1-2. 「一般用医薬品の情報」 「一般用医薬品情報」とは、一般用医薬品の「用法・用量」、「効能・効果」、「成分・分量」、「保管及び取扱上の注意」、「使用上の注意」、「副作用情報」のすべて、又はその一部である。また、回答者が専門家より説明を受け、あるいは自ら説明書等を読むなどいずれかの方法を介して、一般用医薬品を適正に使用する際に必要な情報を得ることを「一般用医薬品情報を入手し

た（する）」と表した。

2. 調査対象者 平成23年10月末現在の五島市の二次離島人口は901人であり、本調査では、長崎県五島市の二次離島全人口のうち医薬品の主な購買層と考えられる16歳以上の居住者846人を本調査の対象者とした（Table 1）。

3. 対面調査方法及び調査期間 行政（五島市）より、五島市内の二次離島の16歳以上の居住者全員に対して、調査依頼文書と同意書を送付し返信を求めた。また、調査依頼文書を理解して同意書を返信することが困難な者がいることも想定されるため、同意書の返信がない住民宅も訪問し再度説明を行い、同意を得た16歳以上の住民に対し回答を依頼した。

二次離島住民への調査依頼文書は、平成23年9月26日から10月19日の期間で順次郵送した。対面調査は、平成23年10月16日に赤島、黄島、黒島、10月23日に嵯峨島、11月3日に枕島、また同日、前島、蔵小島、久賀島の一部、そして11月13日に久賀島全域を訪問して予定していた全日程を終了した。なお本研究は、「社団法人長崎県薬剤師会倫理審査委員会」にて了承され、許可を得たうえで実施された。また、調査員は全員薬剤師であり、長崎県薬剤師会の倫理セミナーを受講した。対面調査の質問項目をFig. 1に示す。

Table 1. The Population of a Secondary Remote Islands and the Number of Surveyed Participants

島名	人口	16歳未満	調査対象者数	回答数 (割合, %)	前回16歳未満 (2010年10月)
赤島	18	0	18	8(44.4)	0
黄島	49	0	49	18(36.7)	2
黒島	5	0	5	3(60.0)	0
前島	35	0	35	14(40.0)	1
蔵小島	12	0	12	3(25.0)	0
嵯峨島	191	25	166	43(25.9)	28
枕島	178	2	176	73(41.5)	19
久賀島	413	28	385	90(23.4)	63
計	901	55	846	252(29.8%)	113

表示値は、本調査の対象地区人口及び対象者数並びに回収数と前回調査時の16歳未満の人口を示す。
(As of October, 2011)

<p style="text-align: center;">離島住民への対面インタビューによる 一般用医薬品使用実態・ニーズに関する調査</p> <p>※ 本調査を行う場合は、家族（同居者）代表者、家族（同居者）への事前の説明と、調査対象者各個人の同意が必要です（詳細は別添資料を参照してください）。また、未成年者の同意においては、保護者の同意が必要です。</p> <p>※ 調査の対象となる年齢は、16歳以上です。</p> <p>※ 調査は、本冊子中の三調査票（下記 1～3）によって行ってください。 原則、一居室につき一冊子となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎調査表 一般用医薬品使用実態・ニーズに関する調査票 服薬・保管状況に関する調査表 <p>※ 各調査表は「家族（同居者）代表者用」と「家族（同居者）1名用」からなっています。 一世帯に16歳以上の住民が3名以上同居している場合は、2冊目を使用して、一世帯としてまとめて保管してください。</p> <p>※ 「家族（同居者）代表者用」は p.1 より記入してください。 「家族（同居者）用」は p.6 より記入してください。 ただし、同居者がおらず一人世帯の場合は、p.6～11 の使用は不要です。</p> <p>「3. 服薬・保管状況に関する調査表」は p.11 より記入してください。</p>	<p>1. 基礎調査表（家族（同居者）代表者用）</p> <p>★ 島の名前（ ）</p> <p>★ 家族（同居者）構成 <input type="checkbox"/>一人暮らし <input type="checkbox"/>配偶者（奥様、旦那様）と二人 <input type="checkbox"/>配偶者以外と二人 <input type="checkbox"/>自分を入れて三人家族 <input type="checkbox"/>自分を入れて四人以上 （家族の方の年齢を教えてください。） 16歳～19歳（ ）人 20歳代（ ）人 30歳代（ ）人 40歳代（ ）人 50歳代（ ）人 60歳代（ ）人 70歳代（ ）人 80歳代（ ）人 90歳以上（ ）人</p> <p>★ 年齢（ ）歳 性別：<input type="checkbox"/>男性 <input type="checkbox"/>女性</p> <p>★ 職業 <input type="checkbox"/>漁業 <input type="checkbox"/>農業 <input type="checkbox"/>会社勤め <input type="checkbox"/>公務員 <input type="checkbox"/>自営業 <input type="checkbox"/>無職 <input type="checkbox"/>その他（具体的に ）</p> <p>★ あなたは現在の島に、どのくらい居住していますか？ <input type="checkbox"/>5年未満 <input type="checkbox"/>5年～10年未満 <input type="checkbox"/>10年～15年未満 <input type="checkbox"/>15年～20年未満 <input type="checkbox"/>20年以上</p> <p>★ あなたの通院状況 <input type="checkbox"/>通院中 <input type="checkbox"/>以前通院していた <input type="checkbox"/>通院したことはない ※飲んでいる薬があれば教えてください（可能なら現物を見せてもらって記入してください） </p> <p>★ あなたはどのくらいの頻度で、薬局・薬店があるような島に行かれますか？ 1)ほぼ毎日 2)週2～3回程度 3)週1回程度 4)2～3週間に1回程度 5)1カ月に1回程度 6)2～3カ月に1回程度 7)半年に1回程度 8)年1回程度</p> <p>★ ご自分でまたは家族の助けを借りてインターネットを使用することがありますか？ <input type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</p>
<p>2. 一般用医薬品使用実態・ニーズに関する調査票（家族（同居者）代表者用）</p> <p>ア）インターネットを使用したことがある人は、どのような機器を使用していますか？ 1)パソコン 2)携帯電話 3)その他（ ）</p> <p>イ）インターネットで一般用医薬品を購入した経験はありますか？ 1)ある 2)ない 3)自分は使えないが家族が使えるので経験がある</p> <p>ウ）一般用医薬品を使用することがありますか？ 1)月1回以上 2)2ヶ月に1回～1年に1回 3)1年に1回程度以下 4)ほとんどない</p> <p>エ）通常、一般用医薬品をどのようにして入手していますか？（主なものを一つ選択してください） 1)保険薬局（大きな島や本土に行った際） 2)ドラッグストア（大きな島や本土に行った際） 3)保険薬局（知人等を買ってきてもらう） 4)ドラッグストア（知人等を買ってきてもらう） 5)保険薬局（電話して送ってもらう） 6)ドラッグストア（電話して送ってもらう） 7)インターネットを利用する 8)定期便の人に購入してきてもらう 9)配置薬を利用する 10)一般用医薬品は使用しない 11)その他（ ）</p> <p>オ）一般用医薬品の服用方法や副作用などの情報はどのように入手していますか？（主なものを一つ選択してください） 1)保険薬局（大きな島や本土に行った際） 2)ドラッグストア（大きな島や本土に行った際） 3)保険薬局（知人等に聞いてきてもらう） 4)ドラッグストア（知人等に聞いてきてもらう） 5)保険薬局（電話で聞く） 6)ドラッグストア（電話で聞く） 7)インターネットを利用する 8)配置薬の人に尋ねる 9)入手しない 10)その他（ ）</p>	<p>カ）薬事法が改正され、離島、継続使用者以外はインターネットで一般用医薬品が購入できなくなり、離島でも今後2年間の経過措置以降は、インターネットで一般用医薬品が購入できなくなる可能性があることをご存知ですか？ 1)知っている 2)知らない</p> <p>キ）薬事法が改正され、インターネット販売と同様、配達や、船送り便ができなくなる可能性があることはご存知ですか？（インターネット販売と配達・島送りが同じことを知っていますか？） 1)知っている 2)知らない</p> <p>ク）一般用医薬品の船送り便が今後中止されたら困りますか？ 1)困る 2)困らない 3)わからない ●なぜですか？</p> <p>ケ）一般用医薬品の船送り便が今後も継続されるとしたら利用したいと思いますか？ 1)利用したい 2)利用したいと思わない 3)わからない ●なぜですか？</p> <p>コ）現在、一般用医薬品（第三類医薬品を除く）のインターネット販売は原則禁止されています。（現在は、継続使用者と薬局のない離島居住者には経過措置があります）今後、インターネット販売ができるようになるとしたら利用したいと思いますか？ 1)利用したい 2)利用しない</p> <p>コーイ）利用したい理由＜複数回答可＞ 1)面白そうだから 2)自宅に居ながらにして手に入れることができるから 3)プライバシーが守れるから 4)インターネットで買う方が安いから 5)インターネットのほうが信頼できるから 6)服用方法などの情報が豊富で安心できるから 7)品揃えが豊富だから 8)インターネットで買物を良くするから 9)島内に薬局・ドラッグストアがなく医薬品の入手が困難だから 10)その他（具体的に ）</p>

Fig. 1. Questionnaires Used as the Basis for the Face-to-Face Survey

<p>コ-ロ) 利用しない理由<複数回答可></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インターネットを使用したことないし、今後もインターネットをするつもりがないから 2) インターネットが分からないから 3) インターネットでの買い物が信用できないから 4) 配送料など、離島なので余計にコストがかかりそうだから 5) 離島なので注文してから配送されるのに時間がかかりそうだから 6) そもそも薬はインターネットで購入するものではないと考えているから 7) 五島市内や、本土（長崎や福岡など）の薬局・ドラッグストアで購入できるから 8) 病気にかかったことがないから薬は必要ない 9) 病気になったら病院に必ずいくから薬は病院でもらう 10) そもそも市販の薬は使用しないから 11) 配置薬があるから 12) その他（具体的に） <p>サ) 必要な一般用医薬品を事前に連絡したうえで、この島（二次離島）まで定期的に、薬剤師等専門家が一般用医薬品を配達販売できるようにしたら、利用したいと思いますか？（緊急時の配達は困難）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用したい 2) 利用したいと思わない <p>サーイ) 利用したい理由<複数回答可></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前もって頼んでおくと、必要なものが手に入るから 2) 薬剤師などの専門家から説明を受けて購入したいから 3) 一般用医薬品以外の医療用医薬品やサプリメントの説明が聞きたいから 	<ol style="list-style-type: none"> 4) 知っている薬局の薬剤師等専門家が配達してくれると安心して購入できる。 5) 医薬品以外の健康相談もできるから 6) 島を出ることなく手に入るから 7) 配置薬以外の医薬品がほしい場合もあるので、薬剤師からの配達を受けたい。 8) その他（具体的に） <p>サーロ) 利用したいと思わない理由<複数回答可></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 緊急時に対応できないから 2) 別に必要と思わないから 3) これまで配置薬で対応して困ったことがないから 4) 配置薬の医薬品が、慣れ親しんだ薬ばかりだから 5) 配置薬を持ってくる営業マンが親切だから 6) 一般用医薬品を使用しないから 7) 薬剤師の説明などを別に聞きたいとは思わないから 8) その他（具体的に） <p>シ) (サ)と同様の設問ですが、<u>医薬品の船送り便等、郵便等販売</u>ができなくなったとした場合は、<u>薬剤師等専門家による、一般用医薬品の定期的な配達販売</u>ができるようになるとしたら、利用したいと思いますか？（緊急時の配達は困難）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) もともと利用したいと考えていた 2) もともと利用したいと思っていなかったし、郵便等販売禁止されても配達は利用しない 3) もともと利用したいと思っていたが、郵便等販売が禁止されたら配達を利用する 4) わからない 5) その他（） <p>シーイ) その理由は？（具体的に）</p>
<p>ス) (サ)及び(シ)で薬剤師等専門家による配達を「利用したい」と回答された方は、どのくらいの頻度必要ですか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 週 2～3 回 2) 週 1 回 3) 2 週間に 1 回程度 4) 月 1 回程度 5) 2 カ月に 1 回程度 6) 半年に 1 回程度 7) その他（） <p>セ) 今後、一般用医薬品を購入する手段として、インターネット、配達、島送り便、配置薬販売では、どの方法があなたにとって最も有効であると考えますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インターネット 2) 専門家による配達 3) 島送り便 4) 配置薬 5) その他 <p>●なぜですか？</p> <p>ソ) 一般用医薬品を、配達もしくはインターネット、島送り便、配置薬販売で購入すると、どのような医薬品を購入したいと考えますか？（複数回答可）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 風邪薬 2) 解熱鎮痛薬 3) 胃腸薬 4) 栄養剤 5) 下痢止め 6) 便秘薬 7) 鼻炎薬 8) 咳止め 9) かゆみ止めの塗り薬 10) 傷薬 11) 救急絆創 12) 目薬 13) 湿布薬類 14) その他（） 	<p>タ) 一般用医薬品を緊急で購入できるとしたら、どのような医薬品が必要であると考えますか？（複数回答可）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 風邪薬 2) 解熱鎮痛薬 3) 胃腸薬 4) 栄養剤 5) 下痢止め 6) 便秘薬 7) 鼻炎薬 8) 咳止め 9) かゆみ止めの塗り薬 10) 傷薬 11) 救急絆創 12) 目薬 13) 湿布薬類 14) その他（） <p>チ) 医薬品の取り扱いに関して、日頃困ること、或いは、以前困ったことはありませんか？</p> <p>ツ) 常日頃、医薬品を使用することに関して、専門家に要望した点がありますか？</p> <p>テ) その他気になった点、或いは医薬品のトラブル（ヒヤリ・ハットやミス）事例はありましたか？具体的に記入してください。</p>

Fig. 1. (Continued)

結 果

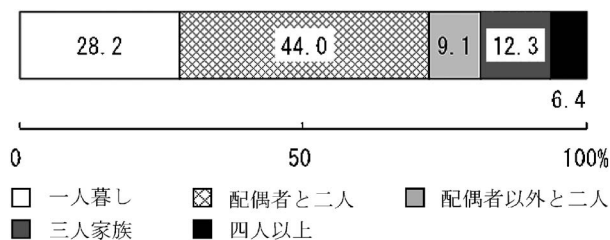
1. 対面調査数 本調査の調査数について Table 1 に示す。本調査の回答者数は 252 人であり、五島市二次離島全人口の 29.8% に該当した。

2. 回答者の基礎情報 回答者の基礎情報に相当する、家族構成、年齢層、職業、通院状況、一次離島への移動頻度を、Fig. 2-6 に示す。なお本調査におけるインターネット使用者は、回答者 ($n=252$) の 7.5% であった。

3. 一般用医薬品使用実態・ニーズに関する調査結果

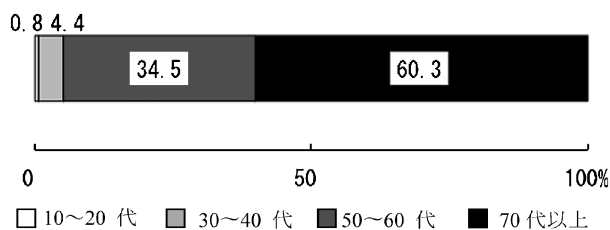
3-1. インターネットを介した一般用医薬品購入経験の有無 インターネットを介した一般用医薬品購入経験の割合は、インターネット使用者の 10.5% ($n=19$)、回答者全体の 0.8% ($n=252$) であった。

3-2. 一般用医薬品の使用頻度 一般用医薬品の使用について、回答者 ($n=252$) のうち「ほとんどない」と回答した者が 63.9% と、一般用医薬品を使用しない者が二次離島住民の半数以上を占めた (Fig. 7)。



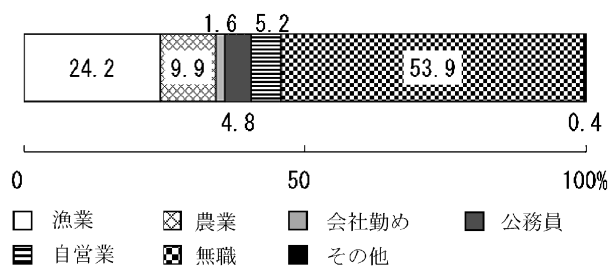
表示値は、回答者世帯 ($n=252$) の家族構成の各割合 (%) を示す。

Fig. 2. Profiles of the Inhabitants (Family Structure)



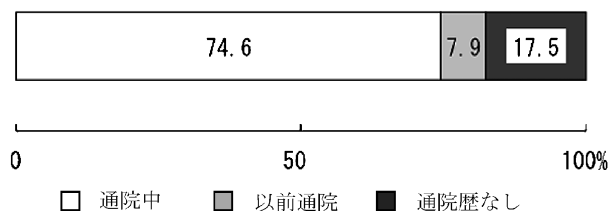
表示値は、回答者 ($n=252$) の年齢層の割合 (%) を示す。

Fig. 3. Profiles of the Inhabitants (Age)



表示値は、回答者 ($n=252$) の職業の割合 (%) を示す。

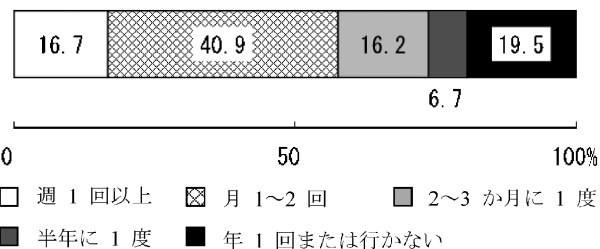
Fig. 4. Profiles of the Inhabitants (Occupation)



表示値は、回答者 ($n=252$) の「病院・診療所への通院状況」の割合 (%) を示す。

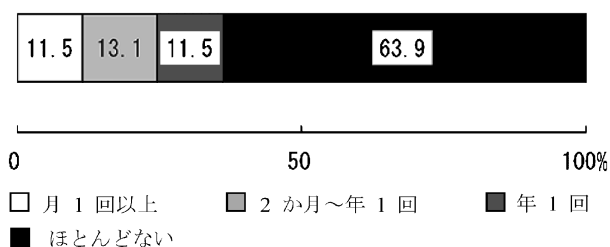
Fig. 5. Profiles of the Inhabitants (State of Hospital Visit)

3-3. 一般用医薬品の購入方法 回答者 ($n=252$) のうち「一般用医薬品は使用しないので購入しない」と回答した者が 47.2% と最も多く、「配置薬を利用」とした者が 27.0% ついで「ドラッグストア (自分で購入)」が 13.9% と多かった (Fig. 8).



表示値は、回答者 ($n=252$) の「一次離島へ行く頻度」の割合 (%) を示す。

Fig. 6. Frequency of Visits to a Large Island by the Inhabitants

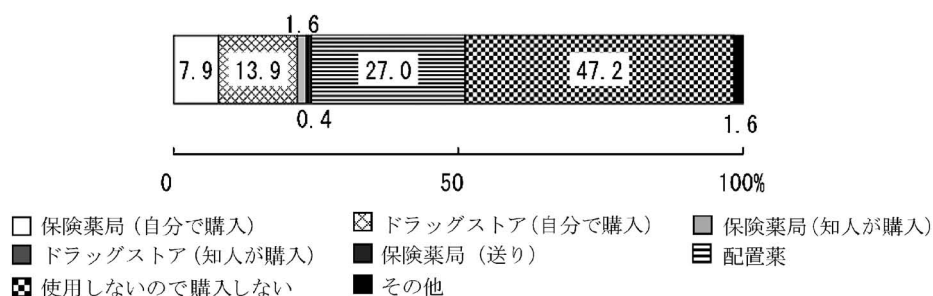


表示値は、「回答者 ($n=252$) の一般用医薬品の使用頻度」の割合 (%) を示す。

Fig. 7. Frequency of Using Nonprescription Drugs by the Inhabitants

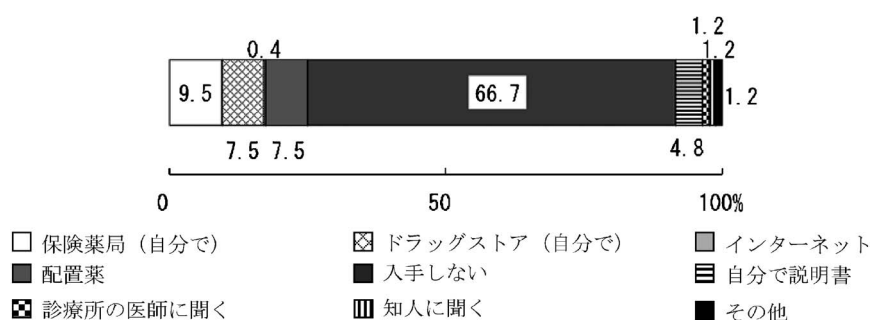
3-4. 一般用医薬品の服用方法や副作用などの情報の入手方法 回答者 ($n=252$) のうち、一般用医薬品に関する情報を「入手しない」とする者が 66.7% と半数以上を占めた。一方、情報を入手する者における入手方法としては、「(自分で) 保険薬局」で入手する者が 9.5% と最も多かった (Fig. 9)。「(自分で) ドラッグストア」で購入する者 ($n=35$) では、「(自分で) ドラッグストア」で情報を「入手する」とした者が 51.4% で、「入手しない」と回答した者が 42.8% 存在し (Fig. 10)、「配置薬」利用者 ($n=68$) では、「配置薬販売業者」から情報を入手する者が 27.9% 存在したが、61.8% の者は「入手しない」と回答した (Fig. 11)。

3-5. 一般用医薬品のインターネット販売要望の有無 回答者 ($n=252$) の 94.0% の者が一般用医薬品のインターネット販売を「利用しない」と回答し、6.0% の者がインターネット販売を利用したいと回答した。その「利用したい」理由としては、「自宅にいながら手に入れることができる (8 名)」、「インターネットで頻繁に買い物をするから (8 名)」、「島内に薬局等がなく入手できないから (7



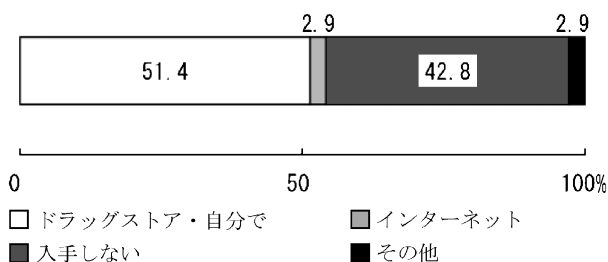
表示値は、「回答者 (n=252) の一般用医薬品の購入方法」の割合 (%) を示す。

Fig. 8. Areas Where the Inhabitants Purchase Nonprescription Drugs



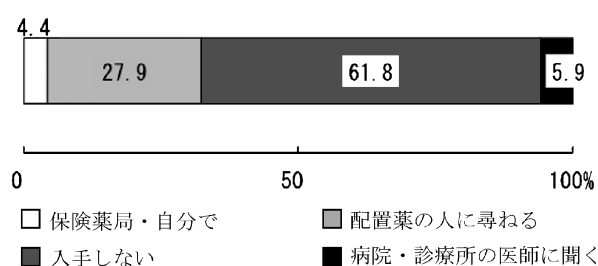
表示値は、「回答者 (n=252) の一般用医薬品の情報の入手方法」の割合 (%) を示す。

Fig. 9. Method by Which the Inhabitants Obtain the Nonprescription Drug Information



表示値は、「一般用医薬品をドラッグストアにて自分で購入する者 (n=35) の一般用医薬品の情報の入手方法」の割合 (%) を示す。

Fig. 10. Method by Which the Inhabitants Who Purchase Nonprescription Drugs from a Drugstore Obtain the Nonprescription Drug Information



表示値は、「一般用医薬品を配置薬で購入する者 (n=68) の一般用医薬品の情報の入手方法」の割合 (%) を示す。

Fig. 11. Method by Which the Inhabitants Who Purchase Nonprescription Drugs for Household Delivery Obtain the Nonprescription Drug Information

名)」、「品揃えが豊富だから (5 名)」という回答が多かった。また、「利用しない」理由としては、「インターネットを利用したことがないし、今後もするつもりがない (123 名)」、「インターネットがわからない (104 名)」といった、インターネットを使用しないといった者が多く、そのほかには、「病気になるたら病院にかならず行く (69 名)」、「そもそも市販の薬は使用しないから (67 名)」という一般用医薬品は必要ないといった回答や、「インターネ

ットでの買い物が信用できないから (27 名)」、「そもそも薬はインターネットで購入するものではないと考えている (16 名)」、「インターネットで買って薬を使用するのは怖い (4 名)」といった回答もあった。

3-6. 薬剤師等専門家による一般用医薬品の定期配達販売要望の有無 薬剤師等専門家による定期的な医薬品の配達販売に対して、回答者 (n=252) の 38.5%が「利用したい」と回答し、61.5%が「利

用したいと思わない」と回答した。「利用したい」と回答した理由として、「薬剤師等専門家から説明を受けて購入できるから（51名）」とした者が最も多く、ついで「島を出ることなく手に入るから（50名）」であった。また「医薬品以外の健康相談もできる（36名）」、「医療用医薬品やサプリメントの説明が聞きたいから（23名）」という意見も多かった。一方「利用したいと思わない」理由として、「一般用医薬品を使用しないから（75名）」が最も多く、ついで「別に必要と思わないから（63名）」とした者が多かった。また、「わざわざ持ってくるのは大変なので申し訳ないから（5名）」、「薬剤師が二次離島まで来ることを考えたことがない（3名）」といった意見もみられた。

3-7. 今後、一般用医薬品を購入する手段として最も有効であると考えする方法 購入するとの回答の中では「専門家による配達」を選択した者が32.1%（ $n=252$ ）と最も多く、ついで「配置薬」であった。「インターネット」を選択した者は1名だけであった。「専門家による配達」を選択した理由としては、「専門家なので信頼できるし安心」、「専門家が来てくれるのなら利用したい」、「専門家だとよくわかるし、相談したい・説明を聞きたい」と回答した者が多く、「配置薬」を選択した理由としては「家にあると便利」というものであった（Fig. 12）。

3-8. 医薬品を使用することに関して専門家に要望したい点 医薬品の情報に関する要望としては、「定期的に来て説明やアドバイスをしてほしい」、「安心できるように副作用や飲み合わせについて説明してほしい」、「医薬品や健康について相談し

たい」という要望が多く、医薬品の購入に関しては、「薬剤師に島まで持ってきてほしい」、「専門家が選んでくれるのなら使用したい」、「薬が手に入り易いようにしてほしい」等の要望が多かった。

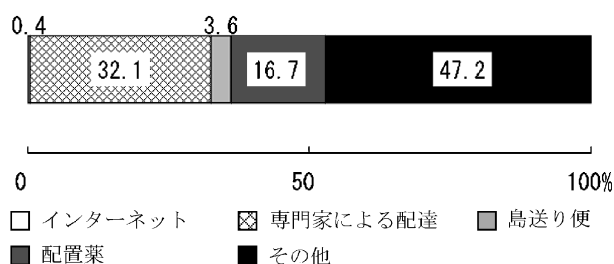
考 察

1. 二次離島居住者基本情報とインターネット環境の実態について 本調査における回答者の基本情報として特筆すべきは、70代以上の者が60.3%（ $n=252$ ）（Fig. 3）と、高齢者が非常に多い点にある。就職や、小児の就学等による若年層の大離島への移住も含め、二次離島の人口減少、高齢化への加速は、今後更に増すと考えられる（Table 1）。また、回答者（ $n=252$ ）の一次離島への移動頻度は、「月1-2回」とした者が40.9%と最も多かったものの、「年1回又は行かない」とした者が19.5%と、約2割の者が島から出ないことが明らかとなった（Fig. 6）。二次離島には薬剤師や登録販売者等が存在しないことから、回答者の約2割の居住者は薬剤師等専門家に接する機会を持たない可能性が示唆された。

回答者におけるインターネット使用者は7.5%と、五島市の二次離島居住者の多くはインターネットを使用していないことが明らかとなった。これは、調査当時の「平成23年通信利用動向調査」²⁾のインターネット人口普及率の79.1%と比較するとかなり少なく、平成22年にわれわれが、五島市全域を対象に実施した、「離島における一般用医薬品購入に関する意識調査」¹⁾の際の二次離島住民のインターネット使用率14.7%よりも更に少ない。この数字の違いは、前回調査よりも16歳未満の者が半数以下と若年層が減少していることにもよる（Table 1）。

本調査では、自分でアンケート用紙に記載するという回答が困難な居住者に対しても、薬剤師が実際に二次離島へ赴き直接インタビューして回答を得たため、前回調査時¹⁾に回答できなかった居住者の回答も含まれ、高齢でインターネットを使用せず、自ら薬局・店舗販売業がある大離島へ容易に行くことができない者、つまり真に一般用医薬品を購入することが困難な者たちの意見が数多く収集できた。

しかし、本調査では、調査員である薬剤師が日曜日あるいは祝日の日中に二次離島の住民宅を戸別訪



表示値は、回答者（ $n=252$ ）の「今後、一般用医薬品を購入する手段として、最も有効であると考えする方法」についての割合(%)を示す。

Fig. 12. Good Methods for Purchasing Nonprescription Drugs in the Future

問したことから、業務上住居している公務員等は自宅のある大離島へ帰っていたり、学校が休みのために若年層は大離島へ買い物等に出かけたり、職業として最も多い漁業の者は漁に出たりしていたために、回答者が高齢者に偏った傾向があることは否めない。

2. 二次離島居住者のインターネットによる一般用医薬品の購入の実態について 調査時点において、郵便等販売の経過措置によって二次離島居住者は、医薬品をインターネットによって購入できるにもかかわらず、本調査の回答者において、インターネットを介した一般用医薬品の購入経験者は2名であり、これはインターネット使用者の10.5% ($n=19$)、回答者全体の0.8%にすぎない。また、「今後、一般用医薬品のインターネット販売規制がなくなったら利用したい」とした者は6.0%であった。「利用したいと思わない」理由としては、「インターネットを使用しないから」とした者や、「一般用医薬品は必要ない」といった理由が多く挙げられたが、「そもそも薬はインターネットで購入するものではない」とする道義的な意見や、「インターネットで購入して薬を使用するのは怖い」と、インターネットで医薬品を購入して使用することに対する不安をあげる意見もみられた。さらに「今後、一般用医薬品を購入する手段として最も有効な方法」として「インターネット」と回答した者がたった1名であったことから (Fig. 12)、多くの二次離島居住者は、一般用医薬品を購入する手段としてインターネットを必要としていないという先行研究¹⁾と同じ結果が、住民への対面聞き取り調査により明らかとなった。ただし、「自宅にいながら手に入れることができる」、「島内に薬局等がなく入手できない」、「品揃えが豊富」という利便性から、医薬品のインターネット販売を利用したいとする者も少数ではあるが存在していた。

3. 一般用医薬品の使用頻度と入手方法について

本調査における回答者の一般用医薬品の使用頻度は、「ほとんどない」とした者が63.9%と、二次離島居住者は、一般用医薬品を日常的に使用する者は少ないことが示唆された (Fig. 7)。現在の一般用医薬品の購入方法としては、「配置薬」とした者が27.0%と最も多く (Fig. 8)、二次離島居住者は、日常的には一般用医薬品を使用することはないが、必

要があれば、身近にある「配置薬」を利用する者が多いことが推察される。また、薬剤師等専門家による一般用医薬品の配達を、「専門家から説明を受けて購入したい」、あるいは「医薬品以外の健康相談等もしたい」という理由から38.5%が「利用したい」と回答しており、この値は回答者の一般用医薬品を使用する者の合計 (Fig. 7) よりも大きいことから、薬剤師等専門家による医薬品販売が存在すれば一般用医薬品を使用する者がいること、また「今後一般用医薬品を購入する手段として最も有効である方法」として「薬剤師による配達」を選択した者が32.1%と最も多く (Fig. 12)、「配置薬」を選択した者は、現在配置薬を利用している者よりも少数であったことから、専門家による配達ができるのであれば、配置薬よりも配達に期待する者が多いことが示唆された。

4. 一般用医薬品の服用方法や副作用などの情報の入手方法について

一般用医薬品の服用方法や副作用などの情報を「入手しない」と回答した者は66.7%と、半数以上を占めた (Fig. 9)。さらに「(自分で) 保険薬局で購入」とした者の多く (85%, $n=20$) が保険薬局薬剤師等専門家による情報の提供を受けたと回答したが、「(自分で) ドラッグストアで購入」した者では約半数 (51.4%, $n=35$) しか情報を入手しておらず (Fig. 10)、一般用医薬品の購入方法として最も多い配置薬を利用する者においては、配置薬販売業者から情報を入手する者は少なかった (27.9%, $n=68$)。これらの結果、二次離島島民は、一般用医薬品購入時の服用方法や副作用などの情報を薬剤師等専門家から入手せずに使用する人が多いことが示唆された (Fig. 10)。しかし、本調査時の質問項目として医薬品の情報の入手に関して、「自分で添付文書を読む」という選択肢を提示していなかったことから、一部、自ら「添付文書を読む」と回答した者はいたものの (4.8%, $n=252$)、「情報を入手しない」と回答した者の中には一般用医薬品の使用に際し、実際には添付文書を読んで情報を入手していた者が存在する可能性は否めない。

一方で、薬剤師等専門家に対して、医薬品やその他健康に関する説明やアドバイスを要望する意見が多く挙げられたこと、さらに実際に二次離島へ赴いた際に、調査員に対して様々な健康や医薬品につい

Table 2. Problematic Events Related to Nonprescription Drugs

- 前立腺肥大があるにもかかわらず、市販の総合感冒剤を購入して服用していた（3事例中、尿閉経験1事例）。
- 一般用の牛車腎気丸を、本来1回8錠服用するところ、調子悪いときだけ1-2錠だけ服用していた。
- ステロイド軟膏の漫然使用による感染があった。
- 一般用医薬品により薬疹あり（感冒剤）。
- 以前、薬局で購入した医薬品の飲み合わせで、体中がかゆくなった。
- 湿疹などで、何をつければよいかわからない。
- 一般用医薬品購入の際、何を使用してよいかわからない。

での相談があったことから、二次離島居住者が一般用医薬品の情報を必要としていないのではなく、その多くは情報を必要としているが薬剤師等専門家から口頭で解説を受ける機会が少ないことが推察される。

また、用法用量を間違っている事例や、ステロイド軟膏の漫然とした長期使用、あるいは前立腺肥大の者が何の情報もなしに感冒剤を服用したための尿閉等、さらには配置薬等、手元に一般用医薬品はあるものの、何を使用してよいかわからなくなった事例等、医薬品情報の不足が原因と考えられる問題事例が、短い調査期間の中からも複数確認されたことから（Table 2）、医薬品の適正使用のためには、薬剤師等専門家の介入は不可欠であると考えられる。

結 論

二次離島居住者は一般用医薬品をあまり使用していないことが明らかとなった。二次離島には薬局や店舗販売業はないものの、行政の努力によって診療所が設置され多くの島で定期的に診療が行われている。また、高齢者の割合が高いことから74.6%の者が病院・診療所へ通院しており、その結果体調が悪くなった際には医師に相談するということが定着している。二次離島居住者が一般用医薬品使用をあまり使用しないのはこういった背景があるからだと考えられる。また、二次離島には配置薬はあるが、一般用医薬品を販売する店舗、あるいは薬剤師等専門家が存在しないため、居住者は医薬品の説明を薬剤師から受ける機会が少ない環境にあり、一般用医薬品の使用を敬遠している者が多いと考えられた。

さらに、薬剤師等専門家に医薬品の説明を受けたいと考える者、あるいは薬剤師等専門家が係わるのであれば一般用医薬品を使用したいとする者も多く存在したが、「大変だから申し訳ない」であるとか薬剤師が二次離島まで来るということ自体を想定外と考えている者も多い。さらに、二次離島には薬剤師が存在せず、診療所からの投薬も医師より受けることから、居住者は薬剤師と接する機会が少なく、本調査に赴いた薬剤師が頻繁に「薬剤師」という職種の説明から入ることが必要であったように、二次離島には薬剤師という職種や存在意義が理解できない者が多い。今後、医薬品の適正使用推進のためには、二次離島居住者を対象とした、薬剤師による医薬品等に関する情報提供を継続的に実施することで、二次離島居住者に「薬剤師」という職能を認識してもらい、「薬剤師」が医薬品に関するすべての場面に介入することのメリットについての理解を得ることが必要になる。そのためには、二次離島の各地域の公民館等の会場の確保や住民の参加確保等の協力を行政にも要請し地区町内会や老人会などとも連携をとりながら、薬剤師が二次離島を訪問し、居住者に対して医薬品の適正使用について解説する「お薬説明会」や患者個々の相談に応じ、要望があれば自宅を訪問して医薬品の整理等を実施する「お薬相談会」等を通じた活動を推し進める必要がある。現在既に、県薬剤師会、五島市の協力及び薬剤師会の経費や助成金等により、平成24年6月より11月にかけて、二次離島の9会場において「二次離島お薬説明会・相談会」を開催してきた。これらの活動により、二次離島居住者が薬剤師の職能や薬剤師の活用についての理解を深めることができることが示唆されたため、さらに薬剤師に対するニーズを調査する研究を進めているところであり、県薬剤師会、五島市の合意の下、平成25年度も「お薬説明会・相談会」の活動は継続予定である。一般用医薬品の供給という点からも、二次離島居住者に一次離島や本土に「かかりつけ薬局」を持つことを提案したい。定期的な二次離島居住者に対する薬剤師のアプローチにより信頼関係を構築し、情報交換を行い、薬剤師が居住者の医薬品服用歴、アレルギー歴、既往歴等を把握することで二次離島居住者の「薬歴管理」を行い、「かかりつけ薬局・薬剤師」による「薬歴管理」に基づいて医薬品を郵送すること、

あるいは二次離島居住者に「配置薬」を含めた島内で入手できるすべての薬剤に関する服薬指導や情報提供も可能となる。今後、薬剤師による医薬品や医薬品情報の提供を継続的に実施することが、これまでよりも安全で効果的な医薬品の供給・管理・適正使用の方法につながると考える。

REFERENCES

- 1) Hirayama T., Tanaka H., Suzuki S., O-mura H., Nagase M., Sakumoto S., Sugahara M., Kitahara T., Miyazaki C., Yamashita N., Yoshitani K., Miki A., Satoh H., Hori S., Sawada Y., *Yakugaku Zasshi*, **131**, 783–799 (2011).
- 2) Ministry of Internal Affairs and Communications, “Communications Usage Trend Survey 2011 Highlights.”:(<http://www.soumu.go.jp/main_content/000161416.pdf>), cited May 30, 2012.